



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部 80円
(会員の購読料は会費に含む)

2024
No.623
7月号

— 霊界と現界 —

生き変り 死に変わりつつ永久の
生命の主は人にぞあるなり
死ぬるも深きわけあるを
知らで世人を導き得べしや
幽世の事ども知らで道を説く
人の言葉は空虚なりける

御光筆

巖上観音

(がんじょうかんのん)

落款 自観
落款印 三界歸一
昭和十二年



◎教団方針

信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

神言霊

霊界と現界

そもそも人間とは、肉体と霊体との二元素から成り立っており、人間が死するや霊肉離脱し、霊は直ちに霊界に入り霊界生活が始まるが、離脱の場合、極善者は額から、極悪者は足の爪先から、一般人は腹部の中央臍部辺から霊は脱出するのであって、仏教においては死ぬことを往生というが、これは霊界からみれば生まれいくわけだからである。また死ぬ前を生前といい、神道にては帰幽といい、転帰というのも同様の理である。そうして霊界人となるや昔から言われている通り、まず三途の川を渡り閻魔の庁に行くのであるが、これは事実であって、私は多数の霊から聞いたそれは一致している。閻魔の庁とは、現界における法廷と同じである。しかも三途の川を渡り終わるや屍衣の色が変化する。すなわち罪穢の最も少なきものは白、次は各薄色、黄、赤、青、黒というように罪穢の軽重に従い右のごとき色彩となるのである。ただ紫だけは神衣としてある。閻魔の庁においては祓戸の神が主任となり、各冥官が審問に当たり、それぞれ相応の賞罰を決めるのであるが、その際、極善人は天国または極楽に、極悪人は地獄へ落ちるのであって、普通人は中有界、神道

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

祖霊と死後の準備

人の死するや、仏教においては四十九日、神道においては五十日祭を持つて一時打切りにするが、それはその日を限りとして霊界へ復帰するのである。それまで霊は、仏教にては白木の位牌、神道にては麻で造った人形の形をした神籬というものに憑依しているのである。ここで注意すべきは、死者に対し悲しみのあまりなかなか忘れ得ないのが一般の人情であるが、これは考えものである。なぜなれば、よくいう「往く所へ往けない」とか「浮かばれない」とかいうのは、遺族の執念が死霊に對し引き止めるからである。ゆえに、まず百力日くらい過ぎた後はなるべく忘れるように努むべきで、写真なども百力日くらいまで安置し、その後いったん撤去した方がよく、悲しみや執着を忘れるようになった頃また掛ければよいのである。

(天恵第三篇より抜粋)

令和六年五月慰霊祭 会長挨拶（抜粋）

明主様は気候と天候について、

『冬の寒さから夏の暑さに至るまでを、四季に分けられて

いるが、その時々の流れに従う気候の変化が順調に推移するのが本来である

にかかわらず、時によると異変する事がある。それは何のためかという

と、全く人間の想念が、霊界に反映

するからである。例えば、人間大多數の想念が正しく温和であれば、気候もそのごとく温和順調であるが、平調を欠く人間が多い場合、すなわち愛と熱にとぼしく冷

やかな人間の想念は、その時あるべき気候よりも寒冷となり、その反対に、何かの出来事に昂奮し、情熱の適正を欠く場合、その時あるべき気候に対し温熱が過ぎるとい

う結果となる。』と、仰っております。

していることになるわけですから、考え方や言葉遣い、

行いに普段から気を付けなければなら

ないと思います。私たち人間には三つの魂が宿っていると明主様の教えにあります。

一つは神の分霊で本守護神といい、良心、善の魂であり、この魂は神様との取り次ぎ者になります。

二つ目は副守護神です。これは動物の霊で、狐、狸、犬、猫、または天狗や龍神などで、生まれてから二から三歳ころにつくといわれています。

三つ目は正守護神です。この霊は、皆さんの御先祖様から選ばれて、つねに身の回りに付き添い守る役目をして

います。虫が知らせるとか、危険な目にあった時に助かる

とかはすべてこの正守護神の働きによるものです。

五月のこども祭神歌に

たらちねの父母なくば現世に

この身この魂

あらじとぞ思う

と賜っています。

たらちねとは母親、両親にかかる枕詞であり、お父さん、お母さんの間に自分がいて、お母さんのお腹から生まれてきます。この日が誕生日になるわけですが、この日は生んでくれたお母さんに感謝する

日でもあります。また、自分の両親にもまた両親がいてそのまた上という具合に続いています

ので、霊界におられる方もいらっしゃいます。その命のリレーの中に私たちも存在して

おり、もしかするとその中の誰かが自分の正守護神としていらっしゃるかもしれません。自身の行いもさることながら祖霊様のご供養をとおして、命のつながりを大切にしま

学び「感謝奉告から学ぶ祖霊供養の大切さ」

日本では七月、八月にお盆をむかえます。今回は、祖霊様の存在を身近に感じとれるご存知のよう

東京教会・加藤稔子さん親子の感謝奉告

加藤さんのご長女が体験された亡き父との会話

今から数年前のことになりますが、香港出張の最終日のことでした。

香港での滞在期間中、ずっととお世話になった香港人の広東語通訳の女性から、「もし、時間があつて興味があるようなら、香港の霊能者に会ってみませんか？」と、通訳の女性

が言いました。飛行機の出発まで時間があつたので、噂の霊能者という人に会うためにタクシーに乗って出かけました。想像していたような、怪しい雰囲気はまるでなく、

明るく、さっぱりとした室内同様、その人も快活な女性でした。英語は話せないということ

で、広東語の通訳だけが頼りでした。「日本から、ようこそおいで下さいました。聞きたいことは何ですか？」と

いう彼女に、私は「今から三十年以上も前に父親を亡くしました。もし可能ならば父のメッセージが欲しいです。

何でもいいから父のことが知りたいです。」と言いました。彼女は「分かりました。お父様のお名前とお亡くなりにな

った日にちを教えてください」と、それだけを聞くと、目を閉じました。何を言われるのか、ドキドキしながら、それでもまだ、信じる事ができないような気持ちでいました。

次の言葉を聞くまでは……。「ずいぶんと大きな犬を飼ったもんだね……。」それが父から私への第一声でした。小

学生

の時に父を亡くし、三十分

数

年経って、初めて受け取る父の言葉に、吹き出しそうになりました。でも、その言葉こそ、他の誰にも分からない、通訳も知ることのない、私と父だけが分かる共通の話題でした。いかにも照れ屋の父らしく、本当の父の言葉として受け止めることができた。我が家には、大型犬のゴールデンレトリバーがいます。体重が三十六キロもある、大きな犬です。その犬はよく、お仏壇のある部屋、それも父の遺影の前で寝転んでいるのです。家の中では、「パパ、びっくりだろうね。こんな大きな犬が目の前で寝ているなんてね……。」などと、笑いながら話している日々なのです。ですから、「ずいぶんと大きな犬を飼ったもんだね」

と

「∠∴。」という言葉聞いただけで、鳥肌が立ちました。その時から、「パパだ！」と直感し、涙が止まらなかったのです。そして、それに続く言葉を楽しみにしていましたら、「お父様はとにかくお忙しいようです。霊界でのお役目がおありで、とてもお忙しい。のんびりしていられませんか。」と言います。その後は、今、思い出しても笑える会話が続きます。私が「えっ、そうなの？ パパ忙しいの？ 何をそんなに忙しくしているの？ 元氣なのね？」と言うと、霊能者が「ありがとうございます。お礼だけしかないね。本当にありがとうございます。ママにも伝えてくれる？ いつもありがとう。姉妹仲良く過ごしてきてくれて嬉しいよ。」と言いました。私が「ちょっと、それだけ？？何かもつとないの？ 食べたもののとかはないの？」と、言うとき、霊能者は「ありがたい以外の何もない。あなたと違って食べたいものは特にない。もちろん香港の土産もないからね。」と言いました。霊能者も通訳も笑っています。私だけ泣いています。そ

れがまた、おかしいのです。霊能者が、「そうだ。ひとつお願いがある。今度、コーヒーを淹れてくれる時には、ブランクじゃなくて砂糖とミルクを入れてくれるかな？」と言いました。私は、これを聞いてまた泣きました。そうなのです。父は大のコーヒー好きで、毎日愛用のカップでコーヒーを淹れて飲んでいました。最近、コーヒーを淹れた時、御仏壇に、父にとコーヒーをお上げしています。手抜きをせずに、砂糖とミルクを入れておりませんでした。で、「パパ、忙しいのにごめんね。でも会えて嬉しかった。どうもありがとう。本当にありがとうございます。そのことを伝えてもらうのが精一杯でした。今、思えばもっと気の利いたことを言えなかったものかと反省をしています。三十年以上も経った今、亡くなった父とオンラインでつながっているような状態になっているというのに、「何か食べたいものはない？」というようなことを聞いている場合じゃないかと笑ってしまいました。それにしても、父は忙しそうに

していました。そして霊能者は最後にこう言いました。「実は、お父様に会えないかと心配しました。それほど、呼び出すことに時間がかかりました。霊界で充実されているお父様で良かったですね。あなたが充実しているのは、お父様が充実されているからこそです。目に見えない世界とはつながっているですよ。」霊界という、とても遠そうに思ってしまう所に行った父ですが、実は案外、近い所にいてくれて、何かの時にはオンライン状態で見守ってくれているのではないか、と思うようになりました。特別なことではなく、誰にとっても同じで、普通のことなのではないか、と思いました。目には見えな

いけれど、つながっている。こちらが何も分からなくても、霊界の方では全て分かっている。そして、何らかの形でメッセージを送り続けていくことができるのではないか、と思うようになりました。帰国後、この話を母にしたら、母は感慨深そうに「やっぱりそうなのね。毎月の慰霊祭と毎月の家庭祭にパパの好きなものをお上げして、感謝をして、ご奉仕もさせて頂いてる。やっぱり通じているのね！」と、言いました。母は大きく頷きながら感心していました。そして、何よりも父が亡くなってから三十年以上、毎月慰霊祭での御供養をさせて頂いていること。そのお蔭で、霊界の父も、現世にいる私達も、それぞれのお役目を頂きながら、元気でいられるのだと、改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。



加藤さんご自身が和菓子屋店主から聞かされた不思議なお話

私は、祭典前日の献饌の御奉仕をさせて頂いております。毎回、和菓子は近所の和菓子屋さんに注文しています。その和菓子屋さんには、餡を小豆から煮て作る場所から始める店内でも貴重なお店です。ある時、その店主に言われました。「不思議なんです。毎回、加藤さんからの注文のどら焼きの皮が、とにかくよく膨らむのです。いつも同じ材料で、同じように焼いていても、他のお客様の注文の時には、決して

こんなには膨らまないのです。毎回、加藤さんからの注文の時だけ、生地がおもしろいように膨らみます。とても美味しそうに仕上がるのです。毎回、不思議で仕方がないんですよ。」と。娘が香港で目に見えない世界を感じてきたように、私もこの「どら焼き」を通じて、さまざまなことを学ばせて頂きました。どんな時も、どんなことにも、明主様の『お光』が届いていることを感じ、感激いたしました。大光明、明主様、本当にありがとうございます。光守様、ありがとうございました。

神言霊

『昔から、「孝行をしたいときには親はなし」ということわざがあるが、そんなことは決してない。むしろ、死後の霊的孝養をつくすことこそ、大きな孝行となるのである。もちろん、墓参、法事なども、祖霊はすこぶる喜ばれるから、遺族または知人なども、できるだけ供養をなすべきである。』

私たち子孫と祖霊様はつねに霊線につながっております。目に見えない存在ではありますが、コミュニケーションはいつでもできるのでないでしょうか。いつでもどこかで見守ってくださっている祖霊様に感謝の思いを込めて日々、供養の念を忘れずに過ごしてまいりましょう。



明主様がお描きになられた扇面「両国の花火に江戸を偲びけり」



岡田茂吉師 の 自然農法

稲の育苗から田植え (四月から五月の作業について)

今年も伊那圃場におけるお米作りが始まりました。

三月二十五日、最初の作業となる種モミの「ノギ取り」を行いました。「ノギ」という稲穂の先端にあるヒゲ状の部位を取り除く作業で、これによりモミ播きの時、機械に引っ掛かりにくくなります。こうして種モミの下準備が終了した後、四月二十三～二十七日にかけて、種モミの選別と「さい芽機^{がき}かけ」を行いました。この作業では、良いモミだけを選出し、数日間ぬるま湯を循環させる専用機械にかけてモミの芽がでる寸前の状態にします。その後、機械から上げて約一日間、日陰で乾燥させた後、四月二十八～二十九日にかけて「モミ播き」を行いました。土を敷いた育苗トレーを専用機械に流しながら種モミを播き、ビニールハウスに入れて芽を生長させます。ここ



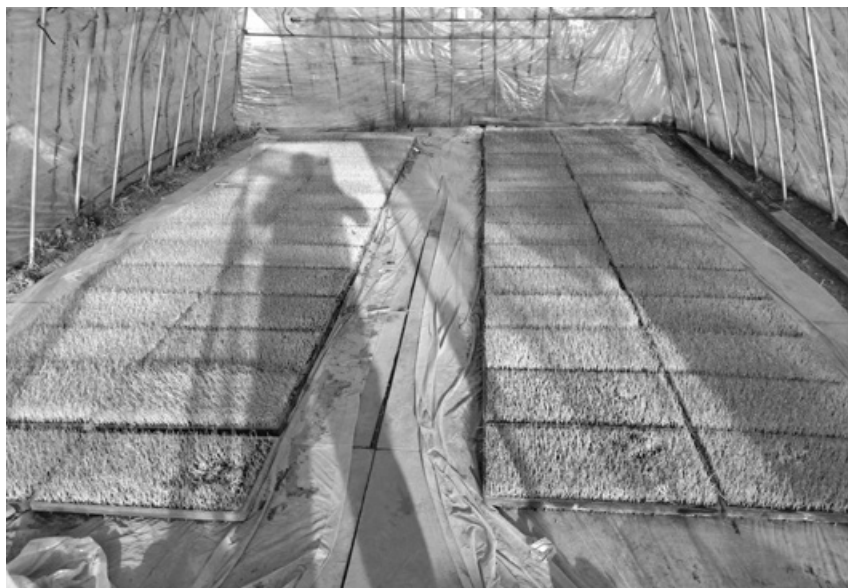
モミ播き



種モミ

までの作業はとても順調に進みましたが、この後が大変でした。ここ数年間は気候変動により四月末～五月初めにかけての陽気が不安定になっており、今回はモミ播き後から夏場の様な暑さが続きました。温度調整が要となるこの作業において高温は大敵です。温度計を日に何度も確認しながらハウス脇を開閉して温度調整をこまめに行いましたが、それでも一時状態が思わしくない様子も見られ、とても心配しておりました。しかし、芽の生長期間が終わり本格的に育苗を始めてからはしつかりと育つようになりました。水田も四月後半にトラクターで耕^{たがや}し、五月に入ってから水を張り、トラクター

で掻きながら整える「代掻き^{しろか}」を二回行い、稲を育てるための準備を整え、五月二十三～二十四日にかけて田植えを行いました。稲苗は五月初めの陽気不安定の影響からか生育の遅れや抜けが若干見られましたが、それでも田植えを行うには申し分なく順調に作業が進み、三枚の水田全てに苗を植え付ける事ができました。連日は天候もよく少し冷えた風が吹



育苗

いておりましたので丁度良い作業日和となりました。ここ数年は農家泣かせの陽気が続いており、前述の通り育苗には苦労しましたが田植えまでは無事に終了しました。今年の夏は非常に暑くなるとの予報ですが、伊那水田の稲が影響なく生長してくれることを祈るばかりです。



田植え



田植えが終了した水田

教団創立五十二周年記念祭・八月祈願祭のご案内

- ◎祭典日 令和六年八月一日（木）十時 開式
- ◎参拝所 東京本部、各布教拠点（本部より一斉中継）
- ◎当日は東京本部境内地、美須磨留の霊埋納地にて「赫誠の碑」除幕式を併せて執り行います。